

医療ガスについて

在宅酸素療法とは

- ・血液中の酸素が不足している方が、ご自宅など病院以外の場所で、不足している酸素を吸入する治療法です。
- ・医師の診断により、保険が適用されます。
- ・全国で17万人以上の方々がご自宅で酸素を吸入しています。
- ・酸素濃縮装置や、液化酸素装置の親機・子機、携帯用酸素ボンベ等を使用して、酸素を吸入します。

1. 酸素濃縮装置

酸素濃縮装置は在宅酸素療法を実施する患者に最も多く使用されている装置で、居宅内で酸素吸入する目的で使用します。

本装置は空気中の窒素を吸着剤に吸着させることで分離して、酸素を連続的に発生させる装置です。

発生する酸素濃度は90～93%程度が一般的です。酸素濃縮装置を適切に作動させるために、風通しがよく適温で清潔な環境に設置する必要があります。



酸素濃縮装置



酸素濃縮装置使用例

医療ガスについて

2. 液化酸素装置

在宅酸素療法用液化酸素装置は、患者が居宅や通院時に医療用酸素を吸入する目的で使⽤します。

この装置は、患者が親機から子機に移し変えるなど直接⾼圧ガスを取り扱うので、LGCに比べて圧力を低く設計されています。

販売業者は、使用するガスの性質や装置について説明し、保安に関する周知文書を年1回配布することが、「⾼圧ガス保安法第20条の5」の規定により義務付けられています。



子機

親機



液化酸素装置の充填作業

3. 携帯用酸素ボンベ

在宅酸素療法用の携帯用酸素ボンベは、患者が医療機関への通院や外出時に吸入するための医療用酸素のボンベです。

患者の負担をできるだけ軽減するために、軽量化された容器を使用しています。

ボンベの素材は、アルミとガラス繊維またはカーボン繊維を使用した一般複合容器 (FRP 容器) やアルミ製の容器が主流となっています。



携帯用酸素ボンベ

ボンベ用のバッグ、カート



携帯用酸素ボンベの充填作業

医療ガスについて

在宅酸素療法の注意

酸素は支燃性(*)のガスであるため、火気の手扱いには十分気を付けなければいけません。

酸素供給装置は、周囲に火気や発火性・引火性のものがない場所に設置し、装置本体・延長チューブ・カニューラなどの近くに火気を近づけないこと、喫煙は厳禁であることを患者さん本人はもとよりご家族など同居している方にもご理解、徹底していただく必要があります。

* 支燃性：他のものの燃焼を助ける性質

- ・空気中で燃えるものは、酸素が多いと激しく燃え易くなる。
- ・空気中で燃え難いものでも酸素が多いと燃え易くなる。

協会ホームページに事故事例と注意喚起の文書を掲載しています。



火気厳禁



警告



禁煙

- この装置は医師の処方及び指示に従ってお使い下さい。
- ご使用前に取扱説明書をよく読み、理解してからお使い下さい。
- 装置に異常が起きた場合には電源スイッチを切って、緊急連絡先へ連絡して下さい。



火気厳禁 運転中は絶対に火気を近づけないで下さい。また高温の場所や燃えやすい物があるところでは使用しないで下さい。火災の原因になります。



禁煙 酸素吸入中は本人はもちろんその近くにいる人もタバコを吸わないで下さい。火傷、火災の原因になります。



折曲禁止 鼻カニューラやチューブを折り曲げないで下さい。吸入不能となります。



分解禁止 キャビネットを開けないで下さい。感電の原因になります。



禁油 油、グリースを使用しないで下さい。故障の原因となります。

使用方法

- 鼻カニューラを酸素取出口に接続して下さい。
- 電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れて下さい。電源スイッチおよび運転状態ランプが緑色に点灯し警報音が約2秒間鳴ります。
- 主治医の処方に従い、流量設定ダイヤルを合わせて下さい。流量表示は実流量を示しており、設定流量と一致するのに数秒かかります。
- 停止する時は電源スイッチを押して下さい。15～30秒後に停止します。

酸素濃縮装置に貼付される警告ラベルの例